

ハンドブックⅡ

学習指導要領解説国語編（平成 29 年 7 月告示）対応

—目次—

1. 国語科の授業とは

- (1) 国語科では何をめざすのか
- (2) 「資質・能力を育成する」ための授業の実現に向けて
- (3) 学びの積み重ね

2. 付きたい力を付けるための指導計画作成例

3. 学習活動のポイント

- (1) 本時のめあてを確かめ、学習の見通しをもつ
- (2) 課題の解決に向けて個人で考える
- (3) 必要に応じて、グループ学習や学級全体の交流活動に取り組む
- (4) 本時のめあてをふまえて、学習を振り返る

4. 参考資料



1 国語科の授業とは

(1) 国語科では何をめざすのか



国語科は、日本語という言葉学ぶ教科です。様々な事物、経験、思い、考えなどが、どのような言葉で表現されているのかを理解し、どのような言葉で表現するかということ学びます。つまり、言葉で考える方法を教え、言葉で考える能力を育成する教科であるといえます。教材の内容を詳細に教えるのではなく、言語活動を通して子どもたちの言葉で考える資質・能力を育成することが大切です。

国語科の学習を構想するにあたっては、学習指導要領解説国語編を読み、国語科の目標や、国語科で育成をめざす資質・能力を確かめることが大切です。



教材を使って



言語活動を通して



言葉で考える力を育てる

(2) 「資質・能力を育成する」ための授業の実現に向けて

言葉で考える資質・能力を育成するためには、受動的な学習に終始せず、子どもたちが能動的に学習を進めていく必要があります。そのためには指導者が以下のような項目をふまえ、子どもたちの「主体的・対話的で深い学びの実現」をめざすことが大切です。

1 単元で付けたい力を明確にして、ゴールにおける子どもたちの姿をイメージする

2 付けたい力を付けるのにふさわしい言語活動を設定する

3 付けたい力を付けるための指導計画と、評価規準・評価方法を設定する

4 単元のまとまりを見通し、一単位時間の学習活動を設定する

① 単元で付けたい力を明確にして、ゴールにおける子どもたちの姿をイメージする

国語科では、日常生活の中で使うための言葉の力を育むことを大切にしています。どのような言葉の力を育む必要があるのかを学習指導要領の指導事項から取り上げて、「付けたい力」として明確に意識して指導することが大切です。その「付けたい力」が単元の目標になります。

[知識及び技能]に示す事項は[思考力、判断力、表現力等]に示す事項の指導を通して行うことを基本としますが、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるような工夫をします。

また、「学びに向かう力、人間性等」は、年間を通して育成する資質・能力であることをふまえ、いずれの単元でも、学年目標の「言葉がもつよさ(価値)～思いや考えを伝え合おうとする。」までを設定します。

・中学校第3学年 [思考力、判断力、表現力等] B 書くこと

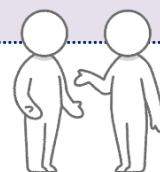
エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えること。

・単元の目標

目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。

[知識及び技能][思考力、判断力、表現力等]の目標は、文末を「～できる。」にします。「学びに向かう力、人間性等」の文末は、「～する。」になります。

単元の目標は、指導事項や学年の目標から設定することを意識しておきます。



② 付けたい力を付けるのにふさわしい言語活動を設定する

学習指導要領解説に示されている言語活動例を参考にして「付けたい力」を付けるのにふさわしい言語活動を設定します。

・小学校第3学年及び第4学年 [思考力、判断力、表現力等] B 書くこと
ア 相手や目的を意識して、経験したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。



この指導事項(資質・能力)を育成するために

・小学校第3学年及び第4学年
[思考力、判断力、表現力等] B 書くことの言語活動例
ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動



子どもたちの状況を考慮し、学習指導要領の言語活動例を参考にして、

身近な標識について調べたことを文章にまとめる言語活動に取り組む

③ 付けたい力を付けるための指導計画と、評価規準・評価方法の設定をする

○付けたい力を付けるための指導計画

単元の指導計画は、①単元全体の課題を把握する ②単元の課題を解決するための学習活動に取り組む ③単元の学習を振り返るといった過程を意識して構想します。

①では、単元全体のイメージや、ゴールの姿を子どもと指導者で共有して学習の見通しをもつことができるようにします。②では、子どもが主体的に学んでいくことができるような学習活動の実現や、子どもたちが表現活動に取り組めるようにします。③では、目標をふまえて、できるようになったことや、自分の考えが広がったり深まったりしたことなどを、ノートやワークシートに書くなどをして、自分の学びを振り返ることができるようにします。

1 単元全体の課題を把握する

2 単元の課題を解決するための学習活動に取り組む

3 単元の学習を振り返る

○単元の評価規準・評価方法の設定

学習指導要領に示された資質・能力の三つの柱をふまえ、[知識・技能][思考・判断・表現][主体的に学習に取り組む態度]の三つの観点で評価します。小学校第1学年及び第2学年の単元の目標及び評価規準を例示します。「ノートや振り返りの記述」「子どもの姿の観察」など、どのような方法で評価するのかを設定します。

単元の目標の例

当該単元の目標を指導事項の一部を用いて設定する場合があります。

読書は、単元の取組みの有無にかかわらず、年間を通して育成する目標として設定します。

| 知識及び技能 | 思考力、判断力・表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|--|---|---|
| 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。(1)オ | 相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。A (1)イ | 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 |

「学びに向かう力、人間性等」の目標は、いずれの単元においても、当該学年の目標の(3)の「言葉がもつよさ(価値)～伝え合おうとする」までを目標として設定します。

単元の評価規準の例

領域を意識して指導するために領域名を入れます。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っていると同時に、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(1)オ | 「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。 A (1)イ | 進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え学習の見通しをもって紹介しようとしている。 |

当該単元の目標に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を設定します。

児童(生徒)の姿を評価するため、文末は「～している。」等になります。

児童(生徒)の「粘り強さ」や、「自らの学習の調整」をしようとする姿を評価します。言語活動自体を評価するのではないことに留意します。

④ 単元のまとまりを見通し、一単位時間の学習活動を設定する

日々の学習では、単元のまとまりを見通して、それぞれの時間の目標（指導事項）をふまえた学習活動を構想することが大切です。

①では、既習事項を思い出す、教材やモデル等と出会うなどして、本時のめあてを確かめたり、学習の見通しをもったりすることができるようにします。②では、個人で考える時間を確保し、自分の考えをもつことができるようにします。③では、何のための交流なのかをイメージできるようにするため、交流の目的や方法などを確かめるようにします。また、必要に応じて交流活動を取り入れます。④では、本時のめあてをふまえて、学習を振り返られるようにします。

1 本時のめあてを確かめ、学習の見通しをもつ

2 課題の解決に向けて個人で考える

3 必要に応じて、グループ学習や学級全体の交流活動に取り組む

4 本時のめあてをふまえて、学習を振り返る

- ・本時の目標（指導事項）をふまえることが重要です。
- ・①から④の順序や組み合わせは例示です。

学習活動のポイントは **3** で紹介。

(3) 学びの積み重ね

国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としています。ノートの記述や話し合いの仕方などの学習の経験や、既習事項としてどのような力をつけているのかを把握しておくことが大切です。

学習指導要領解説国語編には、小学校1年生から中学校3年生までの指導事項が示されています。前の学年や次の学年で何を学ぶのかを確かめることが大切です。指導事項の文章を比較して、学習の系統性を確かめておきましょう。

〔思考力、判断力、表現力等〕 C 読むこと「オ 考えの形成」の指導事項

| (小) 第1学年及び第2学年 | (小) 第3学年及び第4学年 | (小) 第5学年及び第6学年 |
|-------------------------------------|---|--|
| オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。 | オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 | オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 |
| (中) 第1学年 | (中) 第2学年 | (中) 第3学年 |
| オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。 | オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること。 | オ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつこと。 |

学習指導案例(小学校2年生)

○単元名 たからものをしょうかいしよう～順序を考えて話す～(使用教材)○○○○

どのような力をつけるための学習なのかが分かるような単元名を考えます。

○単元の目標

・身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。[知識及び技能]

(1)オ

・相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。[思考力、判断力、表現力等] A(1)イ

・伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。[思考力、判断力、表現力等] A(1)ウ

・言葉がもつよさに気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

単元で重点的に育成をめざす指導事項を明確にした目標を設定します。

○本単元で取り組む言語活動

「自分の宝物を紹介する」(言語活動例との関連:思考力、判断力、表現力等 A(2)ア)

・指導事項に示された資質・能力を育むためにふさわしい言語活動を設定します。

・子どもたちが必要感を感じられるような言語活動を設定します。

○単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|--|
| 身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っていると同時に、語彙を豊かにしている。(1)オ | ①「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、行動したことや経験したことに基づいて、話す事柄の順序を考えている。A(1)イ ②「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。A(1)ウ | 進んで相手に伝わるように話す事柄の順序を考え、学習の見通しをもって紹介しようとしている。 |

○指導にあたって

(1)児童(生徒)観

1学期の単元である「じゅんじょよく書こう」では、「始め—中—終わり」を意識して作文を書く学習をした。この構成は、話す際にも活用できることを意識し、班やペアでの話し合いで活用できるようにしている。また、国語の時間以外の様々な場面で大切なことを聞きとる活動を継続して取り組んでいる。(後略)



児童(生徒)観には、国語科の既習事項や、国語の学習経験などを記載するようにします。

(2) 教材観

本教材は、自分の宝物を紹介する活動を通して、聞き手を意識して内容を整理し、「始め—中—終わり」の構成で話すことができることをねらいとしている。宝物を紹介するということは、「知ってほしい」「伝えたい」という意識を高めることにつながると期待できる。(後略)

教材観には、学習活動を進める上で、当該単元で扱う教材の良さや、学習指導要領の指導事項との関連など記載するようにします。

(3) 指導観

単元の導入では、教員が自分の宝物を紹介する動画を見ることで、宝物を紹介することのイメージをもつことができるようにしたい。宝物を紹介する内容を考える際に、既習の学習を振り返ることで、「始め—中—終わり」の構成を活用できるようにしたい。その後、どのような順序で話すとよく伝わるかを考え、紹介する内容を考えていくようにする。(後略)

指導観には、単元全体を通した学習活動の工夫や、指導上の留意点を記載するようにします。

○単元の指導と評価の計画(全8時間) ※6・7・8時間目は省略

| 時 | 主な学習内容 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法 |
|-----------------------|--|---|--|
| 1 ・ 2 | ○教師の宝物の紹介を視聴し、学習の見通しをもつ。 ○自分が大切にしているものを挙げ、その中から友だちに一番伝えたい宝物を選ぶ。 | ・モデル動画を提示することで、自分の宝物を選ぶ際の見通しをもつことができるようにする。 ・話題が決められない児童に対しては、使っている身の回りのものを思い出すなど、発想の具体的な観点を提示する。 | |
| 3 ・ 4 ・ 5 | ○紹介したい宝物の特徴を、短い文で書き出す。 ○宝物を紹介するためには、どのような順序で話したらよく伝わるかを考えながら、カードを並べ替えたり、その理由をワークシートに書いたりする。 (後略) | ・事物の内容を表す言葉、色、大きさ、形を表す言葉を確認し、カードの中で必ず用いるように指導する。 ・既習の学習を想起することで、「始め—中—終わり」の構成で話すことを確認する。 ・「始め」は、「宝物は何か」を話すようにし指導し、「中」と「終わり」の内容とその順序を考えていくようにする。 (後略) | [知・技]カード ・事物を表す言葉、色、大きさ、形を表す言葉の文意に沿った活用状況を確認する。 [思・判・表①] 観察・ワークシート ・カードの並び順とその順序にした理由を確認する。 |

単元のまとめ(学習過程)が、子どもの思考の流れに沿っているかどうかを確かめ、どのような学習活動に取り組むのかを記載するようにします。

指導上の留意点は、どのような目的で、どのような指導の手だてを構想しているのかなどを記載するようにします。

単元の評価規準との整合性に気を付け、「いつ」「どのような観点で」「何を使って(観察して)」「どのような姿を確認するのか」を記載します。

○本時の展開(3/8時間目)

(1) 本時の目標

・身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(1)オ

(2) 本時の評価規準

・身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使っていると同時に、語彙を豊かにしている。(1)オ

(3) 展開

| 時 | 主な学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準 評価方法 |
|----|---|--|--|
| 5 | ○単元の内容や、前時の学習内容を確認する。 | ・宝物を紹介するという単元全体のためあてを確かめる。 | |
| 5 | ○本時のめあてを確かめる。 | <p>学習計画表を使う等、本時の学習状況と単元全体の中での本時の位置づけや、めあてを確認します。</p> <p>・宝物を紹介するために必要なことを問かけ、宝物の特徴を捉える必要性に気づくことができるようにする。</p> | |
| | 紹介したい宝物の持ちようがわかる言葉を使って、カードにまとめよう。 | | |
| 10 | ○教師が提示した宝物の特徴を捉える。 | ・提示した宝物の色、大きさ、形、使い方などを黒板にまとめ、自分の宝物の何を捉えたらよいかの見通しをもつことができるようにする。 | |
| | <p>必要に応じて意見の共通点や相違点を比べたり、意見を整理したりして、全体共有します。</p> | <p>モデルになる教材などを活用して、学習の見通しをもつことができるようにします。</p> | |
| 20 | ○自分の宝物の特徴を捉え、宝物の特徴を、短い文で書き出す。 | <p>・既習の語彙カードや教科書の付録を使って事物の内容を表す言葉、色、大きさ、形を表す言葉を確認し、カードの中で必ず用いるように指導する。</p> <p>・自分の宝物を見たり、動かしたりしながら特徴を捉え、カードに書き出すようにする。</p> | |
| | <p>「おおむね満足できる状況」(B) 事物を表す「写真」「おもちゃ」、色や形の「青かった」「ほしの形」、大きさの「テニスボールくらいの」などの言葉を文意に沿って使うことができている。</p> | <p>「努力を要する状況」(C)への手だて 友だちのカードを参考にしたり、教師が尋ね発言を促したりしてからカードに書くようにする。</p> | <p>[知・技]カード ・事物を表す言葉、色、大きさ、形を表す言葉を文意に沿った活用状況を確認する。</p> |
| | <p>本時の評価規準に照らして子どもの具体的な状況や支援の手だてを明確にしておき、指導に臨むようにします。</p> | | |
| 5 | ○本時の学習をふりかえる。 | ・宝物の特徴を表す言葉を使って、カードにまとめることができたかどうかを振り返るようにする。 | |
| | <p>本時のめあてをふまえた観点を提示し、わかったことやできるようになったことなどを振り返えられるようにします。</p> | | <p>本時に設定する評価規準は精選します。どの学習活動なのか、どのような方法で評価するのかを明確にします。</p> |

(1) 本時のめあてを確かめ、学習の見通しをもつ

子どもたちに示すめあては、本時で解決することや、どのような目標を達成するのかということをイメージできるようにすることが大切です。

① 本時のめあて

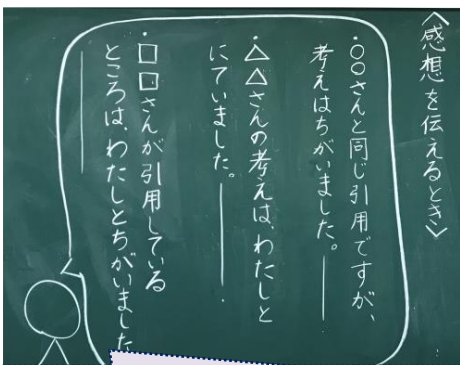
例1 おいしそうな たべものうたをつくるため、おとや ようすを あらわすことばを かんがえよう。(小1)

例2 杉みき子さんの作品を読んで、作品の良さを交流し、自分の考えをはっきりさせよう(小5)

例3 「走れメロス」を表す二字熟語をふたつ考え、その理由を説明しよう。(中2)

上記の例では、「〇〇の活動をする」という学習活動を示すだけではなく、「何を考えるのか」「活動を通して何を解決するのか」を示すことを意図しています。

② 学習の見通し



子どもたちが、どのように活動を進めるのかということや、どのように表現すればよいのかななどの、「学習の見通し」をもつことができるような指導をすることで、子どもたちが安心して活動に取り組めるようにします。子どもの主体的な学びを引き出すことにつながります。

教科書やノートの記述を改めて見直す時間を設けたり、前の学年で学んだことを尋ねたりして、既習の知識や経験を思い出すことも手だてのひとつです。

小学校4年生の児童に対して、交流活動に取り組む前に、教師が黒板に示した「友だちへの意見の伝え方」の例

(2) 課題の解決に向けて個人で考える

子どもたちが、言葉を通して考えられるようになるためには、学習活動の中で、言葉に着目して考える時間を設けます。その際、教科書や教師が配付した資料などの言葉に着目できるようにします。また、学習に自分事として取り組むことができるようにするためには、個人で考えを作ることが大切です。学習活動に粘り強く取り組めるようにすることや、例えば、別の書籍を読んだり、友だちに尋ねたりするなど様々な方法を試すことができるようにすることも大切です。



① 多様な考えを引き出す

例えば、「どのような順序で話すのが効果的なのかを考える」(話すこと)、「文章を書く際に説得力のある根拠を考える」(書くこと)、「登場人物の行動と自分の経験を比べて考えながら読む」(読むこと)など、子どもたちの思考を促すようにすることが大切です。

②子どもの考えを具体的に想定する

子どもたちが、どのような考えをノートやワークシートに表したり、発言したりすればよいのかを具体的に想定しておくことが大切です。その際、指導事項をふまえて想定するようにします。

小学校 第3学年及び第4学年【思考力、判断力、表現力等】C 読むこと
オ 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。

指導事項では、文章を読んで理解したことについて、自分の体験や既習の内容と結び付けることをめざしている。この児童は、文章と自分の経験を関連して考えを表現することができている。

上記のように、指導事項の言葉を拠り所として子どもの姿を想定しておくことで、子どもたちの「おおむね満足できる姿」(B)は、どのような姿なのかの設定につながります。

わたしは、習ったことをなぞるだけで自分には、合った走り方を見につけることはできません。いつか、心にかかるといいな。2年生の時、さか上りを何回もしていても、全くわからなかつた。人に聞いても、せんせん出まかせでいい。しかしある時、穴を足で踏むように、みないていました。たばうで足を踏むと、何回かやってみると、出ました。高野さんのつたえたいことがよくわかりました。

※文中の「高野さん」は教材の作者名

(3) 必要に応じて、グループ学習や学級全体の交流活動に取り組む

○交流活動の目的や観点を明確にする

本時の課題を解決する際、必要に応じて、ペアやグループ、学級全体の交流活動に取り組むようにします。子どもたちの交流活動を設定する際には、次のようなことに留意することが大切です。

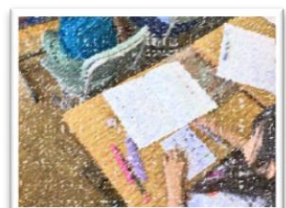
| | |
|-----|---|
| 交流前 | <p>○「他の人の考えを聞いてみたい」「アドバイスがほしい」など、児童・生徒が交流する必要感を感じられるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流する前の自分の考えをもつ（「分からないこと」も含めて） |
| 交流中 | <p>○交流の目的（拡散型、収束型）などに応じて、交流する相手や場を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の観点を絞る ・交流が活性化する温かな雰囲気をつくる（共感⇒質問⇒助言） ・相互の考えの共通点や相違点を思考ツールなどによって可視化する（根拠の明確化） |
| 交流後 | <p>○交流の前後の自分の考えを比較し、交流でどのように成長したのか自覚できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流したことを価値づけ、全体にシェアする（教師の役割） ・考えの広がり、深まり、高まりを伝え合う。「□□さんと話し合っ、このように考えが変わりました」 |

出典：平成30年度 国立教育政策研究所 教育課程研究指定校事業研究協議会 菊池英慈調査官 講義資料より 平成31年2月5日(火)

交流活動に取り組むことで、改めて自分の表現を見直したり、友だちから、助言をもらったりすることができます。自分が気づいていなかったことや、よりよくなった方がよいことなどがわかります。そうすることで、自分の考えや表現に加筆修正したり、推敲したりすることにつながります。

中学校【思考力、判断力、表現力等】B 書くこと 推敲

第1学年では、表記や語句の用法、叙述の仕方などを、第2学年では、表現の効果などを、第3学年では、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめること



(4) 本時のめあてをふまえて、学習を振り返る

① 本時のめあてをふまえる

学習を振り返る際には、本時のめあてをふまえることが大切です。(1)の本時のめあてを例に考えてみると、次のような振り返りが考えられます。

- 例1 おいしそうな たべものうたを つくるため、おとや ようすを あらわすことばを かんがえよう。(小1)
- 例2 杉みき子さんの作品を読んで、作品の良さを交流し、自分の考えをはっきりさせよう(小5)
- 例3 「走れメロス」を表す二字熟語をふたつ考え、その理由を説明しよう。(中2)



- 例1 おとや ようすを あらわすことばを かんがえることができたかどうか。
- 例2 作品の良さを交流し、自分の考えが明確になったかどうか。
- 例3 二字熟語をふたつ考え、その理由を説明することができたかどうか。

「友だちと交流していろいろ教えてもらうことができたので良かった。」「自分が書いた文章はあまり良いとは思わなかった。」など、本時の学習活動の楽しさや、表現したことの良し悪しだけにならないようにすることが大切です。そのためには、振り返りの観点を子どもに示すことも有効です。

また、教師が子どもたちの学習を見取る(評価)際も、「グループ交流に積極的に取り組んでいた。」「これまで書くことが苦手だったが、今日は一生懸命書くことができていた。」など表面的な活動だけを見取る(評価)ことがないようにします。

② 学んだことを一般化する

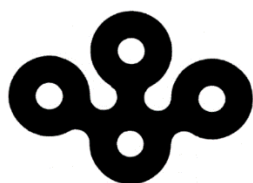


例えば、単元の学習をまとめる段階の振り返りの場合、これまで学んだことを他教科や他の教材などの学習や、日常生活に活用していくことを意識できるようにすることが大切です。

この写真の事例では、小学校5年生が、「話すこと・聞くこと」の学習に取り組んだ単元のまとめとして、学習したことを活かしていけるように、これからの学習や日常生活の具体的な場面を考え、単元全体の学習を振り返るようにしています。

4. 参考資料

- ・文部科学省「学習指導要領解説 小学校国語 中学校国語編」(平成 29 年 7 月)
<https://www.mext.go.jp/>
- ・国立教育政策研究所「学習評価の在り方ハンドブック」(令和元年 6 月)
<https://www.nier.go.jp/>
- ・国立教育政策研究所「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)」(令和 2 年 3 月)
<https://www.nier.go.jp/>
- ・群馬県総合教育センター「はばたく群馬の授業プランⅡ」(令和元年 8 月)
<http://www.nc.center.gsn.ed.jp/>
- ・大阪府教育センター「国語の授業づくりハンドブック」(平成 29 年 11 月)
- ・大阪府教育センター「小学校授業プラン集」(※大阪府内教職員向けパスワードが必要)
- ・大阪府教育センター「学習指導要領(平成 29 年告示)のポイント【評価編】」(令和 2 年 2 月)
<http://wwwc.osaka-c.ed.jp/>



大阪府

大阪府教育センター

〒558-0011 大阪市住吉区苅田4丁目 13 番 23 号

TEL 06(6692)1882(代表) / FAX 06(6692)1898

URL <http://wwwc.osaka-c.ed.jp/>